

訓子府町認定こども園の教育・保育指針

わくわく園だより No.28
R5年10月27日(金) 文責: 牧野

～SDGs は後始末をさせることから始める～

コップやボタン、おもちゃなど、形ある物はみな壊れます。そんなとき、多くの親は子どもの不注意さに腹を立て、自分でサッと後始末をするものです。しかし、自分でできる範囲内で後始末させることが大事です。たとえば、飲み物がこぼれたら雑巾で床を拭かせ、コップが割れたら床の掃除をさせるといったことです。



さらに、子どもに物を修理する技術を教える。のりづけの仕方に始まり、子どもが大きくなるにつれてボタンの縫い付け方やそのまつり方、電球の替え方などを教えるのです。技術によっては、幼い子にはまだ無理なものもあります。子どもの不器用さ、手先の動かし方、判断力などを考慮に入れながら教えることが重要です。

修理の方法を学んだ子どもは、ものが壊れてもたいていのモノは直せるということを学びます。そして、子どもが成長するにつれて、この教訓が人間関係にもあてはまることを学びます。

子どもに修理して再び使う機会を与えましょう。子どもは物がつくられる工程を理解し、それが役立っていることに感謝の念を持つようになります。持続可能な社会を目指すSDGsの考え方に通じるものです。



子どもの「どうして?」「なぜ?」を大切に!

「どうして葉っぱが落ちるの?」「どうして緑から黄色や赤や茶色に色が変わるの?」「どうしていっぺんに変わらないの?」「どうして緑のままの葉っぱがあるの?」「落ちた葉っぱはどうなるの?」「葉っぱが落ちて木はだいじょうぶなの? 寒くないの?」矢継ぎ早に質問してくる子がいました。

「勉強ができる」とは、ただ「成績が良い」ということではありません。宿題をいやいや1時間かけてやっても何の効果もありません。それより、子どもを「やる気」にさせることが重要です。

「どうして?」「なぜ?」が学習の始まりです。幼児期の今が大事なときなのです。やる気が起きると、子どもは、何も言わなくとも自ら学ぼうとします。小学校低学年には「生活科」という教科があります。学力低下を招いたことから、生活科を批判する人がいますが、生活科こそが学力向上の鍵を握っているのです。生活科のねらいは、「自立の基礎を養う」ことにあります。「**凡庸な教師はただしゃべるだけ 良い教師は説明する 優秀な教師は範を示す 偉大な教師は、子どもの心に火をつける**」という言葉があります。親も一緒です。ただしゃべって言い聞かせるだけでなく、心のスイッチを入れてあげることです。



「愛しているよ」「大好きだよ」

夫婦間では、新婚当時は言っていたかもしれませんが、もう言わなくなりましたよね。その分、子どもに言ってあげましょう。

親が子どもにたっぷりの愛情を伝えると、親に愛されていると実感することで自立心や自己肯定感、心の安定感が生まれます。言い続けるとナルシストや自意識過剰な子にならないか心配する人もいるかもしれませんが、大丈夫です。なりません。時には夫婦間で「愛している」「大好き」といってあげると、夫婦仲がよくなって、いいことがあるかもしれませんよ。

10月30日(月)から 11月 4日(金)までの予定

- 30日(月) たてわり保育 (0~2歳児)
- 31日(火) 誕生会 学校運営協議会 3施設合同会議
- 1日(水) 教育委員学校訪問 たてわり保育 (3~5歳児)
- 2日(木) 読み聞かせ (1・4歳児:園長) たてわり保育 (0~2歳児)
3施設合同研修会
- 3日(金) 祝日『文化の日』

*3連休、外出の際は、コロナ・インフルエンザ対策をお忘れなく!



来週から11月です。
クリスマス、お正月
商戦が始まりました。
早いですねえ～。